



五十嵐 敏夫 議員

昭和61年より開催されている「わらじで歩こう七ヶ宿」も今年で37年を迎え、参加者も定着傾向となっているが、今後のイベントのあり方について伺う。



▲今年のわらじで歩こう七ヶ宿

**問** 平成2年に旧七ヶ宿街道再整備工事として完成した、滑津の上小松沢に架かる「にしのさかはし」が通行止めになっているが、今後、施設整備すべきではないか。

**答** 完成から30年以上が経過し、過去にも修繕を行ったが、現在、橋脚や桁ともに腐食し、通行ができない状態である。今後、この施設全体の利用頻度と活用の有無、工事費用を総合的に検討し結論を出したい。



▲「にしのさかはし」

**問** この橋は、総工費約3千7百万円で整備した貴重な町の財産なので修繕すべきでは。

**答** 現在、橋を新設する場合、概算見積もりで6千5百万円かかる。11キロのコースを見直す中で考えた。

**問** 現在の橋を新設するのはではなく、撤去し、簡易的な人が渡れる橋にすべきでは。

**答** 常に渡れる橋は安全性が必要なので、費用対効果を考慮し、総合的に判断したい。

**問** この橋をこのまま放置するの。

**答** 今の橋が駄目なら、撤去を考えたい。

**問** 開催当時には、滑津安藤家本陣などを活用したが、旧七ヶ宿街道を彷彿させる場が少ないので、イベント



▲滑津安藤家

ト内容を見直すべきではないか。

**答** 「わらじで歩こう七ヶ宿」は、夏の風物詩として、参加者から評価されるイベントに成長してきたが、今後、わらじ街道全体について、できるだけ早く見直し、実行委員会に提案する考えである。

**問** 以前は、安藤家の利用などがあり盛大であったが、旧街道の面影が少なく、歩け歩け大会になっていないか。

**答** どうすれば参加者に楽しんで頂けるのか研究に取り組んでいく。

**問** 「エアコン設置」の助成できないか

**答** 様々な課題があり、制度化は難しい

異常気象と言える近年、今年は連日猛暑が続く、防災無線から体調管理を促すアナウンスも頻りにあり、近年の猛暑は一過性のものでなく今後も続くと思うことから伺う。

**問** 猛暑が続く中、特に高齢者世帯のエアコンは、

ぜいたく品ではなく必需品となっている事から、福祉対策としてエアコン設置への助成支援をすべきでないか。

**答** 冷房の適切な使用は有効と思うが高齢者訪問から見えてくるものとして、エアコンの使用上の問題や加齢による体温調節機能低下などの問題、電気工事や設置手続きなど、特に一人暮らしの高齢者は困難と思われるので、制度化は難しいと考える。

**問** 熱中症は自覚のないうちに進行する。特に高齢者は命にも関わることから

エアコンが必要でないか。

**答** これまで防災無線によるこまめな水分補給や、屋外作業での注意喚起などを行い、見回りが必要な世帯には訪問や声かけなども行っており、必ずしもエアコンが全て解決するわけではない。

**問** 本町では除雪機購入への助成制度もあり、購入する家庭も増加している。同様にエアコンの購入への助成も小さい自治体だから出るのはではないか。

**答** すでに一家に1台ある所や、電気代など、設置効果についても確認が必要なので、しっかりこの夏の状況を確認して対応したい。



吉田 修 議員

